

第5回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会  
会議録【議事概要】

日 時：平成24年6月27日（水） 午後6時半～午後8時15分  
場 所：船沢公民館中研修室  
出 席：澁谷リーダー、メンバー8名、計9名  
欠 席：2名  
事務局：3名

---

1 開会（定刻）

2 前回の会議録の確認

- ・事前提出のあった修正意見について事務局から説明し、修正内容を確認した。
- ・市のホームページにおいて会議録を公開することについて了解を得た。

3 作業

- ・前回行った現地調査を地形図、現地写真、航空写真で振り返る。
- ・活用方法などのアイデアを黄色、問題点をピンク、その他を水色のふせんに書き出した後、A1サイズの地形図に貼りながら、論拠を話す。

【澁谷】

《アイデア：主たる入口》

ここが弥生いこいの広場でこれがオートキャンプ場。私達はここから入ったが、主たる入口というのは多分この辺だろう。

《アイデア：ドングリをまく》

この中に新しい森を作るのはそう簡単に作れるものではない。でも、ここはすごく豊かなナラの木林がまだまだあって、秋になればドングリがいっぱいある。ドングリを集めてドングリをどんどんまく。それが育つか育たないか別。ひたすらまくことと、ドングリを集めるのは良いだろう。

《アイデア：上（西側）の林道とつなげる》

西側地の境界付近に、林道が走っている。その林道とうまく繋げる方法はないだろうか。

《アイデア：間伐をして切株をベンチに》

ここの地区は当然雪が深いので、何かを作ってもすぐダメになるけれど、休

める所は欲しいので、木を少し整理し間伐して切り株をベンチなどにしたら良いのかな。

《アイデア：素掘の側溝をつくる》

殿様道路付近は不法投棄の巣窟だった。単管で作っても雪で壊れてしまうので、思い切って大きい素掘りの側溝を掘ると物理的に車が入れない。

《問題点：森のつくり方》

ドングリをまくと言ったが、本当に森は上手く作れるのか。

《問題点：不法な侵入を防ぐ方法は？》

《問題点：防止柵では無理》

不法投棄を防ぐ方法を物理的にやって良いのだろうか。もっと人間のモラルを向上させないといけないのではないか。

《問題点：安全対策はどうする》

ここ（入口から①ロープ塔小屋まで）は安全対策。確かに人は歩けるが、あっち見たり、こっち見たりすると落ちたりする可能性があるので、防護柵を設置した場合、その管理を誰がするのか。

《アイデア：ツリーハウスを作る》

ツリーハウスを作りたい。

《アイデア：地元のガイド》

《問題点：管理は誰が》

地元のほうに経済的な話しをすれば、こういう所をきちんと歴史を踏まえて上手く説明してくれる、ガイドさんのような人の配置や管理も含めて必要なのではと考えている。

あまり長い文章でなくても良いので、別な意見など枝葉を付けていってくれば良い。あとはそれを取りまとめて、この辺はなんとなく皆がやりたい部分とか、こういうふうなものにしようか、ここはまた別なものにしようかというような仕分けをしていくので。

《アイデア：ホタルの発生を注視!!カワニナ発見!!》

《問題点：キケンな動植物をどうおしえるか》

【堀内】

《問題点：出入口・アクセスポイント》

まずエリアが広いというところ。アクセスポイントや出入り口、これを決めなくても良いのだが、これだとわかりにくい。

それからエリアが広いというのでまず簡単なほうからいくと短時間かな。長時間というのも反対にある。

《アイデア：安全で短いルート（景観が良い）》

《その他：高低差がないルート》

《その他：日中、短時間》

短時間というのは高低差がないルート、また、水平エリアは高低差がない。多分どこから入っても良いが、日中の短時間、イコール安全で短いルート。

《その他：高低差のあるルート》

私は好きだが、普通の人はおもしろくない高低差があるルート。

《アイデア：ロングコース（景観は一般向けでない）》

《その他：湿地、水辺》

しかもそこは水が多い。水が多くて景色が悪いロングコース。

《その他：広葉樹林》

《その他：乾》

そこ（①ロープ塔小屋）のさらに高い方には広葉樹がある。

《アイデア：表示、サイン（その修理も必要）》

しかし、どこから行っていいのかわからない。そのためにサインや表示が必要。大本がどこだかわからない。

《問題点：整備、管理》

《問題点：経年の管理？》

サインなどは壊れていくので、どうするのか。

《アイデア：治山・防災手法の観察》

似たようなエリアで平川の志賀坊に小さな防災の手法の観察、防災ダムを見せている、表示してあるところがある。

《問題点：トイレ》

滞在時間が短いというのはトイレの問題。体力よりはむしろ、トイレがないので。弥生に行けばあるのだが、時間が短ければトイレをここに作るという話でなくて済むのかな。

《その他：夜、移動しない》

危なければ動かないと良い。夜移動しないというのはどこに行けば良いのかわからないから。

《その他：日中、長時間の行動（2hr～）》

私は人がたくさん来ると感じているのは、やはり景色が良い所。2時間、3時間歩いても誰にも会わないところは、全然景色が良くないところという印象があって、眺めが悪いところはちょっと人気がないのかな。

【竹浪】

《問題点：殿様道路付近は当面利用しない》

殿様道路付近はやっぱり不法投棄があって、そこは利用できないのでは。

《アイデア：見晴しがよいので休憩場所に》

ここは見晴らしがやはり良いので、休憩場所などはこのロープ塔のあたりが良いのではないかと、利用出来るのではないかと。

《アイデア：正門からロープ塔小屋まで、細い通路でロープ塔小屋の付近を開けた感じの広場に》

この開けた場所に休んだり出来るような、ただここからここまでは広くする必要がないので、狭くしてここを広くするというふうにしたらどうなのかな。

《アイデア：西側雑木林に観察路を》

それからこの雑木林はすごく良い印象があるので、小さい細い観察路など通ればどうか。

《アイデア：東側の湿地帯、沢帯に観察路を通す》

それから東側の湿地帯、この辺の湿地帯とこの辺の遷移の姿は、これからつくられていくと思うが、植物に関心のある人や花を見たいという人が、見晴らしが悪いけれども関心を持って歩く場所になるのではないかと。

《その他：観察路を案内するガイドを配置》

やっぱり観察路を案内するには、ガイドの方々がやっぱり必要なので、ガイドさんを養成していく必要があるのではないかと。

《問題点：南側のコンクリート通水路は危険》

南側のコンクリート（⑨集水塔の上下付近にある付替水路）のこの辺はすごく危険なのでここは活用出来ないだろう。

《その他：登山道をロープ塔小屋から西側にむかってつくっていく》

登山道の一つの入口にしたらどうか。今日、歩いてきたけれど、一時間で三合目まで着いた。だから弥生の入り口よりもはるかに早く着く。藪を漕ぎながらも歩けるので、少し整備すれば登山道になる。

【阿部】

《アイデア：生物遷移のはじまり、コケ》

この辺（④東側地と⑨集水塔を結んだ中央付近）にまだ裸地で、コケしかないところがある。ここは観察の一つの起点位置だ。

《アイデア：ラン観察》

《その他：回復がかなり進んでいて、ギンラン、ウメガサソウ、イチャクソウ等の観察場所》

こちら（②西側地）は、かなり遷移が進んで、いろんな植物がある場所。

ランなどの観察、非常に珍しいランがあった。ランやイチャクソウ、それに珍しいヒトツバイチャクソウという、なかなかのものが群を成している。だからこちらは植物観察に良いだろう。

【澁谷】

エゾタンポポを観たか。

【阿部】

エゾタンポポはあった。また、ここにはオランダイチゴ、普通のイチゴもあった。

【竹浪】

昔、植えてあったから。

【阿部】

《アイデア：雑木林、夏涼しい、冬は風がない》

それからこの雑木林。特にえん堤の場所、ここの雑木林をぜひみていただきたい。代表的なドングリの林。おもしろいのがこのえん堤、この計画の最初に計画が認められる前にえん堤を造った。営林署が許可していないのに。行ってみればわかるが、えん堤の上に全然土が溜まっていない。林の中は土が流れない、非常に良い例。

《アイデア：ハッチョウトンボと珍しい植物（水溜）》

ハッチョウトンボの場所、この辺（④東側地）に水たまりができています。それでヘラムシなどが成長して、ハッチョウトンボなどがいて、その岸には側溝がある。側溝があるにも関わらず、側溝で排水しているにも関わらず、ここに水がきている。やっぱり水が溜まる湿地を作る原因があるのだろう。ぜひともこの場所は観察の目玉の一箇所にして欲しい。

《アイデア：ザリガニ》

そしてこの沢（④東側地と⑨集水塔を結んだ中央付近の沢）に、アメリカザリガニではない、ニホンザリガニがいる。このザリガニはどうやら尻尾の形が北海道のものと違う。

だから、これはひょっとしたらアオモリザリガニで青森特産種になる可能性がある。

【久保田】

私は女性の観点から、何年か前に全部回って見たけれども、大変だなというのが第一印象。ずいぶん苦労しながら、草をかき分けながら見に行った。

《問題点：遊歩道があれば良い》

《問題点：休み場所があれば良いと思う》

前々から私たちがやれば良いなと考えていたのは、まずは遊歩道。入り口からちょうど景色の良いところに遊歩道を作って、その所々に休み場所を作ってコーヒーやお茶を飲んで景色を眺めるという休み場所をつくってもらいたい。

《問題点：花木を使っての体験場所があると良い》

子ども達や親子で遊歩道、そういう場所をみながら、歩きながら、花木を使った体験場所など、親子でやれるもの、作れるもの、遊びながら作れる場所、体験場所があれば良い。

《アイデア：湿地帯には水芭蕉等を植えつける》

跡地は湿地帯がすごく多いということで、嶽の奥の方に水芭蕉がずいぶんある。ニッコウキスゲや水芭蕉など群生している場所というのは木で橋を作り、渡りながらその水芭蕉をみて楽しむ。ザゼンソウの写真を撮ったり、ザゼンソウを見つけてすごく喜ぶ。そういう湿地帯には水芭蕉やザゼンソウなど見られる場所があれば、またそれを目標として行く人が多いのかな。

【前田】

《アイデア：休息場所》

入ってすぐ景色が良いところなので、そこにやはり休憩場所などにして景色を見る。入って間もなくなので疲れてはいないと思うが、そこに休憩場所があった方が良くないかな。

《アイデア：植物観察》

そして、ロープ塔からずっと上に上がっていったところは、空気も違って、腐葉土もすごかったので、ここで植物の観察ができるのではないかな。

《問題点：トイレ跡地はどうするか》

さらに上にトイレの跡があったので、これをどうするのか。

《問題点：不法投棄はどうするか》

殿様道路の不法投棄が気になったので、これはどうするのだろう。こっちの下の印象があまりない。

《問題点：子供達は危ない》

ここの沢みたいなお場所（③砂防えん堤）。高さがあり、落ちると子供たちは危ないので、どうにかならないか。

《その他：ガイドさんがいればいい》

私たちは山がわからないので、前回の調査でウルシを教えてください、やはりいろんな危険なものや危険な動物を教えてくださいガイドさんが必要ではないか。

【佐藤】

《アイデア：沈砂池の整備》

《その他：子供達があそべる場所》

私は沈砂池が気に入ったので、あの辺を整備して、子供たちが遊ぶことができたらいいのかな。

【蒔苗】

《アイデア：展望台、休憩場所》

主たる入口から入って行くと、少し広くなって景色が良いところがあったので、そこに休憩場所と展望台があれば良いのかな。

《アイデア：遊歩道》

ここから上に上がった林のなか（①ロープ塔から②西側地まで）を遊歩道にして歩けるようにすればどうか。

《アイデア：遊べる場所にする》

途中2箇所、アシがあり広くなった場所は親子で遊んだり、弁当を食べられるようにすればどうか。

《問題点：アシを芝に変える等》

そこはアシではなく、芝生に変えなければならなくなるのかな。

《問題点：通行止》

この辺一帯（④東側地）が湿地帯のようにになっているが、これから森に還っていくと考えられるので、ここから下を通行止めにして人は入らないほうが良いのではないか。

《問題点：車輛の進入＝ゴミ等》

《問題点：車両進入禁止》

殿様道路から入るところは車が入れるような道路のため、車両の通行止め、車両侵入禁止にしないとゴミを捨てたりするのではないか。

《アイデア：水辺で休憩、観察》

沈砂池のところで水辺の観察や休憩などはどうか。

【神】

《問題点：ロープ塔小屋への道、雑草等多い（ウルシ）、歩きやすいが整備必要》

まずはロープ塔のところ、ロープ塔の小道は雑草がかなり多くウルシもあり、ちょっと歩きやすいが整備が必要なのかな。

《アイデア：見晴しがいい、夜景、星》

皆さんは休憩場所などが良いといった場所だが、夜景を見ることができたり、星を見ることができて良いのかな。

《問題点：小屋の残がいが有りキケン？》

ロープ塔のところは小屋の残骸があり危険だ。

《アイデア：機械の間に木が生える等、自然のすごさが見られるかな？》

危険だが、機械の間に木が生えていておもしろく、何かに利用できないか。

《問題点：森林化しており、なれた人がいないと迷うかも（ガイド必要？）》

森林化しているのでガイドさんがいないと一人で入れば迷ってしまうのでは。ある程度家族でも入れるようにいづらか道路を整備すれば、楽に行ける道路になるか。

《アイデア：ワラビ等がいっぱい、山菜を採れる場所へならないか？》

あと上の方（②西側地）はワラビなどがたくさん採れる場所なので、そういう場所もおもしろいかな。

砂防えん堤は整備した後、生き物がいれば親子で捕れるようにすればおもしろいかな。

【澁谷】

みなさん、多分同じような意見で固まってきている。

【竹浪】

これからホタルの発生も注視していきたい。特にこの辺の沢、沈砂池、こちらの方も当然だが、カワニナが確認されているので、これからゲンジボタルなど大量に発生する可能性がある。

【久保田】

ホタルは一斉にでる日があると聞いたことがある。黒石の浄仙寺が有名だと聞いたことがある。

【竹浪】

7月上旬から中旬にかけて、8月の初めころまでだ。

【澁谷】

ホタルは蒸し暑い夜にでる。ホタルを大事にしている地域というのは、市内だと松木平辺り。ホタルはある特定の樹に発生する。ほとんど松のクリスマスツリー状態。

【阿部】

光るものがあるとみんなそれに集まってくる。そして、みんな同調して一斉に点滅するので、ホタルの樹という呼び方もする。

現在、ホタルが三種ここにいる。一つはゲンジボタル、もう一つはヘイケと

いったたまり水に、池にいるホタルがいます。それからもう一つは全く池には関係なく、あの登山道にいるのがヒメボタル。三種いてよく光るが、現在、ゲンジのほうはおそらくあまり多くないと思う。ヒメとゲンジの違いはゲンジが少し早く、それで大きい。光は空色。ゲンジの方がカッコいいので、みんなゲンジボタルと騒ぐ。でも、ハイケボタルも結構明るくてきれい。登山道には川がないので陸生の貝を食べている。

#### 【澁谷】

皆さんの意見の中で興味深い話がいっぱい出てきている。何もしなくても結構できるじゃないか、ちょっとしたことをやればすぐできるじゃないか、というのが大半。

やはり、入りやすかったというのが第一だ。まっすぐそのまま行けば、堀内さんが話したように歩く時間によってコース分けができる。歩きたい人は下まで歩けば良いし、子供たちを連れてくる人はちょっと行って帰ってこられるだろうし、楽しみ方は多様だろう。

あと、阿部さんの意見では、開発された功罪とはいかないまでも、遷移の過程がいろんな場所で見られる。黙っておいても観察はできるのだから、その辺はうまくやれば何とかかなるかなという気はする。

反対に森に還る部分というのはあまり人が入らず、そのままの遷移に任せれば良いという蒔苗さんの意見もあった。

人がどんどん入ってくるとゴミの不法投棄が増える気もするし、何とかしなければならぬ。

それと久保田さんが以前から言っているように、あそこで休んでおいしいものを食べてお茶も飲みたいし、何かしたいものを用意しておく必要があるだろう。方法は別にしてもそんなものがあれば、いこいの広場とは違った楽しみ方ができてくる。

いこいの広場よりは見晴らしが良い。東に向かって明るく、開放的であれば、神さんが言うようにスターウォッチングなどすごく良いだろう。ただ、夜の入れ方をどうするかということは今後考えなければいけないが、東の空に対する星の見え方はすごく良い。

防災施設は、えん堤や沈砂池、調整池がある。現在未完であり、工事が終了したため、防災的なものが不要だというわけではない。しかし、どうするわけにもいかない。今あるものをこんなこともあると、こういう風なものがこうだったから必要であったという話がでてくるかもしれない。逆転の発想でモノを見せていかないといけないし、今後、人を集めることが大事かもしれない。簡単にまとめれば、このようなご意見だった。

次に、赤いのが問題点の箇所、ロープ塔から上の方の現況林や中央部など、アイデア出しがたくさんあった。大きくこの辺は主に観察をする場所、この辺は親子で楽しむ場所、森林で遊ぶ場所など、くくり分けをしていきたい。そのくくり分けをしていった中で、気に入った名前がついていけば、もうちょっと具体的なイメージが湧いてくると思う。

【阿部】

久渡寺も最初はいろんな観察場所を作った。しかし、子ども達が見る場所ほだいたい限られていた。見せたいと思っていたものがみんな消えていった。だから、我々のところで、ここの場所で見せたいものをきちんと伝えていかないと。景色が良いから見てくれではなく、こういうことがあるから子ども達に見せる、市民の皆さんに見せることを続けていけば、いつの間にか育つ。これはトンボ池の例。もしこういうのを観察に使うとなれば、観察に使うためにはどういうものに、どういう目を付けていくか。そういうことをやらないと、私は育たないと思っている。景色が良いから人が集まるかといえば、ほとんど来ないだろう。こういう点でここを活かしていくんだ、だから見てくれという働きかけをしないとここは全く無駄になってしまう。

良い例が座頭石、座頭石もいろんなことをした。池こしらえてみたりしたが、誰も利用しない。

【澁谷】

今さらここにどうのこうのという話はないと。当然それはしない、現状のものをどう見せるかだ。今、久渡寺の話が出たが、あそこも実際整備されて月日が経ち、周りの木々が生い茂って見晴らしがきかない道がいっぱいある。結局そうなる。ここも今は眺望があるかもしれないが、何年かすれば木々が生い茂って見えないかもしれない。その良い例が、ロープ塔の上、ヨシだったところ。今はブッシュで人は入れない。あそこはすごく開放的で、現地調査の時はちょうど良かった。あそこに皆さん入ってもらい周りを見たが、全然眺望が良くなかったが、木を切つてしまえば良いかといえばそういうわけでもない。

【阿部】

最後に一つだけ、トイレの問題。今、山のトイレが、登山家の間でも非常に問題になっている。登山家たちはもうトイレはいらない、自分たちで背負っていくという提案をし始めている時代。だから、ただあそこに流しっぱなしのようなトイレを作るのだったら、私は絶対反対だ。きちんと汲み取りをするのだったら話は別。例えば、弥生いこいの広場のトイレを使わせてもらうようにし

てはどうか。もし、トイレを作った場合、今までのような山のトイレはこれからは考えていかなければいけないのではないか。

【澁谷】

この懇談会が始める前の報告書を見ると、東屋とかそういう話は実際あった。もし、あそこに作った時に雪の中を管理できるのか。屋根の雪はおろさなければならぬし、春先になれば引く力で倒壊する可能性もあるかもしれない。反対に言うと、構築物など管理ができない中で整備しても無意味かもしれない。現状では入るシーズンに限られるかもしれない。最初の話では危険なところは何とかしないといけないという話になるかもしれない。あまり無理をせず、何を見せてどうするかということに着目しながらやっていくことの方が、ずっと息の長い話になるし、先ほどからでているのがガイド。迷うことはそんなにならぬかもしれないが、前は竹谷さんがいろいろ説明してくれておもしろかった。説明がないと何もおもしろくない。だから、そういう方々が、地元の方々がいて、日々この中を歩いて、不具合なところを見つけたり、何らかの形で関わりを持っていけるだろう。

それよりもやはり、一番気になっていた部分をあまり皆さんが言わなかったのが、不法投棄だ。これは絶対、付き物。

【竹浪】

道の作り方、車がもちろん入れないような、人がひとりふたり歩けるくらいの細い道を基本にして、見晴らしが良い場所を刈り払いしたり、整備しても、わざわざ、この中までごみを捨てに来ることはないのではないか。むしろ、殿様道路は車がどんどん行けるから、あそこに夜来て投げていく。

【阿部】

真ん中の沢とこっち側の道路の側溝と一緒に近くの辺りは、いっぱいゴミが捨ててある。だから、何もここばかりではない。ゴミ捨ては本当に困る。

【澁谷】

だから、ゴミのことを抜きにして、ここを開放できない話だ。物理的になれば、また管理、管理となって無駄なお金がどんどん掛かってしまう。

【阿部】

それで、岩木山を考える会の会員が道路は細く、ひとり歩く位にしろと。手押し車を持っていくようだと危ないという話がある。

【澁谷】

50ccのバイクのわだちがあったりした。山菜取りがバイクで走っている。

【竹浪】

そういう面では、澁谷さんが言ったように入れないように穴を掘るのも一つの考え方だ。

【澁谷】

そういう方法も無きにしも非ずで、やるかどうかは別。  
また、長靴を履かないで来る場所と長靴を履かないといけない場所と棲み分けが当然出てくる。

【竹浪】

それは必要だと思う。

【澁谷】

この場所に来た人に対してこういう場所だと教えなければいけない。跡地はこういう場所だと入る前に、レクチャーしなければいけない。

さっき、サインの話もあったが、ひたすら危険などという看板が羅列して良いのかというのもある。前田さんは普段あまり山に行かないが、子ども達とあそこはすごく良いから行こうという話になるか。

【前田】

どうだろう。でも、行ってみないとわからない。

【神】

阿部さんがさっき話していたが、観察など行くポイント、目的、目標がないとなかなか人は集まらない。あそこに行けば、特別な植物が見られるとか、先ほどお話があったニホンザリガニは、ここ特有のものだよとか、ホタルが見られるという部分があると人が来るかもしれない。やっぱりそういう目的、目標みたいなものが明確化すれば、行くかもしれない。

【澁谷】

珍しいものを探すのはなかなか至難の業だ。よく見るものの方がたくさんいて危なくてもわからない。でも、それが一番大変だ。跡地を渡ろうとする熊が

一番危険。あとはヘビとハチ。

【阿部】

17日に岩木山を考える会の会員が昼間にタヌキを見た。だから、そういう面で野生動物を観察することができる可能性のある場所。そういうのを見られる場所なので、かなり、岩木山の自然度が高くなってきている。

【澁谷】

弥生の観察カレンダーみたいなものがあればいいのかな。

【竹浪】

そのようなものがあってここに行けば、こういうことを教えてもらえるなどであれば、来る人も出てくるのではないのか。

【澁谷】

場所を特定し、貴重なものになればみんなが行く。持ち帰るという可能性も無きにしも非ず。カワニナなんか良い例で、ダンブリ池にカワニナが大量に発生している。あれをみんなが持ち帰る。かつての昔のようなブームはないが、休耕田を使ってトンボを復活させようという話がいたるところにある。さっき、阿部さんが話したように止水域にはヘイケがでてくるので、そこにカワニナをばらまく。そのカワニナの供給地がダンブリ池だ。

【阿部】

岩木山を考える会で、先ほどでてきた水芭蕉沼のススキとアシを刈っている。あそこに育っていたナガボノシロワレモコウというワレモコウがあって、そのワレモコウにゴマシジミという蝶々が卵を産んでいる。それが、今絶滅寸前。それで、ススキが大きくなるから。そのススキを我々が刈っている。今年で五年目か六年目になると思う。やっと増えつつある。ところが、去年、そこに県外から来て蝶々を採っていた。だから、そのところは保護していると書けば、もっと宣伝したことになって、もっとみんなが採りに来るわけだ。だから、そういう看板も立てられないし、時々行って協力をお願いをしている。頼むと快く協力してくれる。

【澁谷】

動植物で人を呼ぶと確かに来るけれども、無くなる可能性もあるわけでそこが怖い。例えば、ここが少し人の手が入って、山菜の宝庫になってしまうと、

一年で採りつくされてしまうかもしれない。

【阿部】

4、5年前、僕らが入った頃は川の向こうの笹藪にタケノコがすごくあったが、今、もう知られて採られてしまっている。

【澁谷】

竹谷さんも話したけれども、あのナラの木林は秋が楽しみだと思う。

【阿部】

あそこにはナラノキシメジが生えている。

【澁谷】

そういうことが知れ渡ると確かに人は入るけれども、良い結果が生まれない。だから、痛し痒しですよ。

【阿部】

皆さんの意見を聞いてほしい同じような考えだから、いろんな難しい問題もあるだろうし、とりあえずはガイド養成といった問題もあるだろうし、観察道路の問題もある。観察道路はできれば皆さんの知恵をいただいて作れば良いなど。実際はそんなにお金をかける必要はないと思う。うちの方の会も毎年調査を行うので、こういう具合に道路を作れということになれば、岩木山を考える会の仲間を連れて歩いているうちに道路になるでしょう。だから、そういうことで良いのではないかと私は思っている。

【澁谷】

前回の調査であの場所を知っている人が長靴を履いてきた。

【神】

私はズックで行きましたね。

【澁谷】

わからないと、結局そうなる。上の方は比較的乾いてあった。だから、歩くことは苦にならない。もし、途中で中央部の湿地帯の方に入って靴を濡らしたり、下に行けばズブズブになっていく。そうすると、せっかくの楽しい思い出がなくなってしまう。

いろいろな人が入るということを考えておかないといけない。そうなるのとある種の制限も出てくる。

【竹浪】

さっき堀内さんが言っていたように、短い距離で簡単に誰でもズックを履いて来られる場所とある程度準備をして歩く場所、ガイドもちゃんとして歩く場所という考え方を整理しながら、考えていくことが必要でないか。

【澁谷】

前回、あの中で何人か帰ったことを知っているか。あそこにいたのはアップルストリームで一生懸命ライブを撮っていたカメラマンがいたけれど、途中で帰った。それは、自分の服装や靴など含めてだけれども。我々は調査だから、ずっと回った。

だから、堀内さんが言ったように接点があった方が、人は行ったりまた帰ったり、回ったり、それぞれの好みに合わせて行ける。だから、そうしてくれるほど、阿部さんが言ったようにいろんな遷移の場所を見て歩くのであれば、それなりの格好をしないと無理だし、ましてや、それを説明してくれる人がいないと何もおもしろくない。ただ、子ども達を連れて親子で楽しみたいのであれば、ある場所を用意すれば勝手にできるし、行って帰ってこられるし、それならトイレの心配もあまりないだろう。

皆さん歩いて分かるように、ロープ塔のところまで何も苦はない。そそっかしければ、落ちるかもしれないけれども、それさえ気を付ければ。そんなコース単位の設定やメニューも含めて考えられる。

今までは真ん中の表土がなくなってしまうことや雑多なものに目が向けられていたが、実はそうではないということがわかってきた。見せ方もいろんな見せ方がある。そういうふうなソフト的なものを取りそろえていくと無理をして、やらなくたって良いだろう。

例えば、蒔苗さんはもし子ども達を連れていくと考えれば、どういう風に連れて行くか。

【蒔苗】

やはり、観察的なことになってしまう。生徒を連れていくのであれば、学習なのでこれまでの経緯など説明してもらい、何年前はここが裸地であったけれども、今何年経ってこういうところまで緑が回復したというイメージになる。

【竹浪】

同じように17日に観察会をやった時、初めて来た人は前にどうであったかというのを、きちんと教えてもらえれば良かったという人がいた。そうすればイメージとして湧くので、そういう説明があれば良かった。

【澁谷】

初めて行った人はわからない。

【竹浪】

やはりそういうことも必要なのでは。

【澁谷】

今、竹浪さんからこの前の観察会の話が出たので、少しこの前の感想をお話しただければと思う。

【竹浪】

資料の下の方に2部お配りしてある。17日の日に観察会をやって32名の人が参加されて、調査を兼ねてやったが、植物と動物と木の太さを測った。そうしたら、さっき阿部さんもお話した通り植物では上の方の雑木林の中で、ランの花や珍しい花が結構、群を成しているのが発見された。観察できたということがあり、ここは良い場所だなとみなさん思っている。

全部で202種ということで、現在、下のはがされたところも含めてどんどん遷移が進んでいる状態で、やはりこういう植物を説明できる人がいるのといないのでは全然違う。だから、そういうかたがあそこに居てもらえれば良いのかなと感じた。

動物では相変わらず、ニホンザリガニとハッチョウトンボも観察できたし、モリアオガエルの鳴き声も聞こえたので、これもまた珍しい。

それから木は、だんだん上の方が、西側の木の成長が始めのうちはずごく大きかったけれども、だんだん落ち着いてきつつあって、下の方の更地であった方の樹が大きくなりつつある。ニセアカシアは2年ぐらいの間で倍ぐらいの大きさであった。これからそういう遷移もさらに進んでいくのかなと思った。

あと資料として発見された植物、動物を一覧で載せておきましたので、ご覧いただければと思う。

【澁谷】

フォローアップ調査もしているのか。

【竹浪】

はい。3ヶ所、一番後ろにつけておいた。木は10本ずつで①、②、③というふうに。

【澁谷】

もし、ここに④があるのであれば、それこそ西側の上の部分。これは興味あるよね。ずっとこれは継続的に調査するのか。

【竹浪】

継続してやっていこうと思う。

【澁谷】

こうなってくるとやっぱり、詳しいかたがいないとだめだね。ウルシ、ツタウルシ、ヌルデ、ヤマウルシ、この辺は問題だよ。

【阿部】

子ども達をね、例えば町内会だとか、あるいはその会で連れていくとすれば、ガイドを今のところ、岩木山を考える会の私が引き受けますので、いつでも申し付けてください。もちろん無料です。うちの会はお金をもらわないことになっておりますので。

【澁谷】

ただね、すごく樹木に関してもそれはおもしろいのはわかるけれども、森に入れば、この前はエゾハルゼミが鳴いていたし、鳥も鳴いていたし、ああいうものに対する説明とかあると楽しい。整備されているいこいの広場とは全然違うということの楽しみ方を見つけていかないと。

さっき、芝生広場になれば良いなという話があったけど、あの状態だった。現地に入った時にはね、今はもう絶対入れない。ヨシが生えてしまうと全然話にならないし、あれをいくら刈ってもすぐだめ。地下茎でいっぱい増えているので。ああいうふうな形になるというのはある時期だけ。今行けば、「ええこれが」という状態。多分人がしょっちゅう入っていて、何かやっていると変わってくるのだろうけど、放棄してしまうとどうしてもあの状態だから。また枯れて、あぁなって。それがまた下から地下茎で増えてきてを繰り返す。だから、あれはヨシの遷移しかないですよ。あれ以上どうにもならない。樹も生えてこない。まあ、20年間以上放置したわけですから。

【神】

この調査表をみて、カブトムシとかはいないのか。

【阿部】

カブトムシは今のところいない。去年の11月に見たときには、クワガタがヤナギの木の枝をスコアリングといって皮をかじった跡はあった。だから、おそらくアカクワガタといってお腹のところが赤いクワガタがおそらくいたと思う。

【神】

子ども達はカブトムシなどがたくさんいれば集まりそうだ。

【阿部】

ニレがあるとよくくる。ニレの樹液によくくるけれど、ニレがまだでてない。

【澁谷】

ヤナギにはクワガタはいる。あのトンボ池は放棄地だったが、ヤナギを残した。だから、ヤナギにクワガタが大発生して、小沢小学校の子ども達がおもしろがって採っていたね。

【神】

カブトムシがいたら、人がきそうな感じはする。

【阿部】

カブトムシは堆肥で普通育っているから。だから、集まってくる樹液をだすような樹があれば、あの辺だとどこかからか飛んでくる。クワガタは木の倒木がないとだめ、ノコギリクワガタは特に流木に発生するから。だから、川原のあるところに流れてくる木があればそれに発生することがある。

【久保田】

今年、りんごの樹の穴が開いているところにクワガタが結構いた。子ども達は樹に登って捕っていた。

【澁谷】

だんだん意見も出尽くしてきたけれども、ただ皆さん感じ方はほとんど同じなので、今回でたものを次回は少し整理してまとめて、そこについて具体的に

どうしていこうか、どうしたら良いかということ煮詰めていきたい。そこそそ楽しみの世界ですから、これからどうしていこうかという話ですから。次回は、そのような形で少しずつ目に見える形でやっていきたい。それが、現実的に整備されていないけれども、ただこんな風にしていくと。例えば、将来的には昔のかつての森になるかもしれない。繰り返しになるが、ナラの木林からドングリでもいっぱい集めてきて、ぶん投げておけばどんどん生えてくるのではないか。だから、みんなで森づくりに役立つ方法を考えながら楽しいことを考えていこう。

次回はこの作業を継続しながら、やっていければ良いですね。だんだん方向性が見えてきましたので、少しずつ整備の方向などを含めて、ここを開放するにはどうすれば良いかということを考えていきたい。

## 5 閉会

最後に、次回の日程調整を行い、8月8日（水）の18時30分から船沢公民館中研修室にて開催することを確認し、第5回懇談会を閉会した。